大洲高校 PTA 月報

令和２年７月号

会員寄稿　**朝の図書館はとてもおすすめです**

図書・研修課長　菊池　　薫

私は昨年度から大洲高校の図書館の管理を担当しています。図書館というのは、学校の設備の中でも地味な印象を持っている方が多いと思います。校内でも端っこにあって、ほとんど足を運ばない生徒もいます。そこで、私がここで述べたいのは、ぜひ隠れた大洲高校の図書館のすばらしさを知ってほしい、ということです。現在、大洲高校の図書館は蔵書数約25000冊です。蔵書数だけを見れば、県内の高校でも普通の規模ですが、大洲高校の図書館がすごいのは、毎年の新書の購入冊数です。大洲高校は毎年300冊くらいの新しい図書を受け入れております。ちなみに昨年、県内の高校での図書の受け入れは大規模校から分校まで含めて平均200冊です。つまり、生徒総数から考えると、県内の高校でもかなり多い方になります。これは自慢していいのではないでしょうか。実際、閲覧室の本棚を見てみると、単行本のコーナーにも、新書のコーナーにも、結構な数の新しい本が並んでいて、話題になった本もそろっています。さらに、先日の休業中には、先生方にも協力していただき、閲覧室の古くて価値のなくなった本を整理することができました。大洲高校でも指折りの利用価値の高い、贅沢な施設であると自負しております。

しかし、実際に何度も足を運んでくれる生徒は限られていて、貸出冊数も多いとはいえず、そこが悩みの種になっております。この施設を利用しないのは、ほんとうにもったいない！と残念に思います。利用者数が少ない原因のひとつとして、生徒たちは、お昼は歯磨きや追試に午後の授業準備、放課後は部活動といろいろと忙しいことではないかと推測しています。そこで、生徒のみなさんにぜひ利用して欲しいと考えているのが、朝の時間です。現在７時５０分には図書館が開館しているようにしています。最初は利用者がほとんどいませんでしたが、毎年の「朝の読書」活動が今年も６月から始まり、SHR 前の 10 分間に全校生徒が読書をするようになってから、朝の図書館を利用する生徒も見かけるようになりました。朝のさわやかな空気の中で、これからすぐ読める本を探している姿はとても楽しそうです。「朝の読書」をきっかけにして、朝の図書館を利用することを習慣にする生徒がもっと増えてくれることを強く期待しています。読書の習慣は、これからの人生を豊かにしていくものだと思います。ぜひ、ご家庭でもおすすめの本を紹介してあげてください。